

第五福田小学校

よさを認める環境づくり

本校では、6月23日(月)～28日(土)を「えがお週間」として、児童が自分や友達のよいところをたくさん見つけられるよう、様々な取組を実施しました。

「なかよしの木」の取組では、各学級に「なかよしの木」を貼り、友達や自分のよいところを書いた葉っぱ型のカードで木を成長させていきました。葉っぱの色を変えたり、実や花のカードを使ったりすることで目で見て楽しい、やってみて楽しい取組を目指しました。「えがお週間」が終わる頃には、どの学級の木もとても大きな木に成長していて、児童みんなが自分や友達のよいところをたくさん見つけられたことが分かりました。

また、日頃の生活の中で児童の頑張っているところを見つけた教職員が、その頑張りをカードに記入して児童にわたす「グッドビヘビアカード」の取組もスタートしました。カードを3枚集めた児童は、校長先生から直接「スペシャルグッドビヘビア賞」のバッジをもらうことができますのですが、取組を始めて3か月で受賞者数が100名を超えました。児童のよいところを認め、どんどん褒めることで、児童自身の自己肯定感や自己有用感が高まり、児童自身の行動がよい方向に向いていくことを実感しました。これからも、教職員一丸となり、児童のよさを認められる環境づくりに励んでいきたいです。



水島中学校

PTA 人権教育講演会

本校では5月31日(土)にPTA 人権教育講演会を行いました。講師に万寿小学校の荒木亜紗子先生をお迎えして、「『ちがいが』と『つながり』を楽しむ世界の旅」という演題で、ご講演いただきました。プレゼンテーションソフトを用い、先生が現地で撮影した写真や動画を提示しながら、実際の経験をもとに講演をされたので、非常に具体的な内容で、生徒たちは興味をもち、熱心に聞き入っていました。私たちが他の国に対して「正しく知らないことがいっぱい」という認識はありましたが、日本が他の国の人々から「正しく知られていないこともある」というギャップを多くの生徒が改めて認識する場面がありました。「①正しく知る」「②安心」「③ちがいを楽しむ」というステップが多様性を尊重するうえで重要だというお話が印象に残りました。

生徒や保護者の方の感想の中に「いろいろな国のこと、そこに住む人たちのことを知ろうとすることは大切なことだと思います。」や「世界の成人識字率や児童労働者の数を知って、衝撃を受けました。まだまだ世界には知らないことが多いことに気づきました。」というものがありました。また、今回の講演会をきっかけに「外国についてもっと知りたい」「実際に外国に行って自分の目で見てみたい」と外国に興味をもつ生徒も多く見られました。

近年、外国の方を日常生活の中で見かける機会が増えたと感じます。今回の講演会を異なる文化的背景・価値観をもつ人々が互いに多様性を認め合い、尊重し安心して暮らすことのできるように理解や認識を深める機会にしていきたいと思います。



研修視察

10月4日(土)

「隔絶の歴史」から考える

～偏見や差別のない未来をつくるために～

【人権課題:ハンセン病問題】

今年度は、瀬戸内市にある長島愛生園に研修視察に行きました。推進委員・事務局員17名が参加しました。長島愛生園は、ご存じの通り、日本で初めて設立された国立のハンセン病療養所です。歴史館の見学では、学芸員の方に「ハンセン病は、治療できる病気であったのに感染した方々は、強制的にこの島に隔離されたこと」「そのような状況の中でも入所者の方々がたくましく生きてこられたこと」を教えていただきました。その後、「収容棧橋」「収容所(回春寮)」などの史跡をめぐる見学。昼食を、長島にある「さざなみハウス」でいただくとともに、店主の方から愛生園で療養生活を送られている方々との日常のふれあいについてお話を伺いました。

《参加者の感想》

- 説明をしてくださった方の話がとても分かりやすくいろいろと考えさせられることもあり、とてもよかったです。知らないということから起こる悪意のない差別もあり、胸が苦しくなりました。うわべだけでなく、様々な方向から知り、考えていくことの大切さを改めて感じました。
- 一生のうちに一度は行きたい、行っておかなければと思っていた長島愛生園に行くことができ感謝しています。心にずっととくものがありました。人権の大切さ、重み、子ども達に伝えることの必要性、伝え方、考え方など様々なことを感じた研修になりました。



人権学習推進委員等研修会 1月17日(土)

「パラスポーツの世界」 ～ボッチャ体験から考える～

今年度の推進委員等研修会は、『ボッチャ』を体験し、パラスポーツの魅力を知るとともに、障がいへの理解を深めるという内容でした。ボッチャのルールや競技の進め方については、倉敷市スポーツ推進委員の方々から教わりました。子どもも親世代も高齢者の方々も同じ一つの場で競技を楽しめるパラスポーツの魅力を感じながら、交流を深めることができました。



【人権課題:障がいのある人】

《参加者の感想》 ☆は中学生の感想
♡全く知らなかった「ボッチャ」でしたが、ルールも分かり今後パラリンピックなどをテレビで観戦するときも楽しく見られそうです。
♡簡単そうに見えるけど、考えて投げる事、また、チームワークも必要な競技だと分かりました。
☆普段していないスポーツだったので、ワクワクしていました。実際に体験してみると意外に難しかったです。
☆誰もができるスポーツで、いろいろな人が楽しめると思いました。

ふれあい・交流活動

小ざくら保育園秋まつり10月17日(金) / のぞみ保育園落ち葉まつり11月7日(金)

【人権課題:子ども】

小ざくら保育園、のぞみ保育園、水島小学校の子ども達と交流しました。小ざくら保育園・水島小学校との交流では、子ども達と推進委員と一緒にお神輿を引いて地域を回りました。子ども達の元気な掛け声が町に響き渡りました。のぞみ保育園との交流では、園児とともに、集めた落ち葉を使ってかわいい作品づくりに挑戦しました。のりやはさみを上手に使う園児に感心しました。日頃、子ども達との交流が少ない推進委員も多く、子ども達と一緒に活動する中で自然と笑顔になれる楽しいひと時をもつことができました。



小ざくら保育園 秋まつり



のぞみ保育園 落ち葉まつり

人権作文

第四福田小学校



いじめかノリか決めるのは

言っている方ではない

六年 上瀬 夏美

これは、私が人権について勉強する中で感じたことです。加害者がいじめじゃないと思って言ったことや行動でも、被害者や、周りの人たちがいじめだと思ったら、その言葉や行動はいじめになるのです。今考えると、私も過去にいじめにつながってはいないかと感じる経験をしたことがあります。クラスの中や廊下など、友達と話しているとき、いやな気持ちになる言葉や、話している人がいました。私以外の人にも同じように良くない言葉をたくさん言っていました。私が、「なんでそんなこと言うの?」とたずねると、「ノリだよ!」と言われまして。そう言われると、私は「ノリが悪いと思われたくない。」と、頭ではだめだと分かっていたけど、同じような言葉を言い返すようになってしまいました。もしかすると、相手はのぞみ保育園の子供たちで、いじめかノリか決めるのは言っている方ではないと思います。決めるのは、言われている人や周りの人です。これからは、ノリで人を傷つけてしまうことがないように、自分の行動や言葉に責任をもち、みんなが楽しく過ごせるいじめがない学校にしたいと思います。

「届け、認知症の人の思い」～正しく理解し、みんなが暮らしやすい社会に～
元中国学園大学・中国学園短期大学 教授 寺山 節子 氏



誰もがなりうる認知症。第4回ところ学では、認知症とはどのような症状か、どうすれば発症を防ぐことができるのか、認知症の人とどう接していけばよいのか、具体例をもとにして話を聞くことができました。「認知症を誘発する病気になっても、認知症の発症を抑えることはできる」という言葉が印象に残っています。認知症に限らず、どのような病気に対しても正しい認識をもち、適切に行動することを心掛けたいものです。

《参加者の感想》
○生活習慣を見直していきたいと思いました。脳を元気にすることを実行していきたいと思いました。
○身近な話題だけに、今回は結構メモを取りました。なるべく脳を刺激するように、小さなことでも、意識しながら行動しようと思いました。
○認知症についての講演を聞いたのは、今回が初めてです。正しい知識を、分かりやすく教えていただけたのが、良かったです。80代の両親との関わりに生かしていけそうです。



「阪神大震災で見たこと、感じたこと」～30年の記憶～
岡山県立倉敷中央高等学校 教諭 高木 潤 氏

講師の高木氏は、大学生の時に阪神淡路大震災に遭遇しました。実際にその場にいた人しか分からない災害、地震の恐ろしさについて切々と語っていただきました。講演を通して、冷静な行動、人と人のコミュニケーション・助け合い、日ごろからの防災の備えなど命を守るために何が大切か改めて考えさせられました。



《参加者の感想》
○私の中では、この阪神淡路大震災が初めて経験した大災害だったので、講演での話に聞き入りました。こういった災害の記憶、教訓は、忘れてはいけなと改めて思いました。
○実際にその場にいたからこそその体験談は貴重です。「地域コミュニティーが大事」という言葉が印象的でした。

◆京都フィールドワーク◆ [水島中学校区人権学習推進委員 平松 智子さん]

9月27日、28日の二日間、倉敷市教育委員会主催の京都フィールドワークに参加し、差別の歴史や被差別部落で生活した人々の痕跡が残る京都の地を訪問しました。まずは、立命館大学国際平和ミュージアムで戦争と平和の歴史をたどり、自分がどう踏み出すかを考えさせられました。次に下鴨神社を参拝しました。広大な森林に囲まれた荘厳な神社の南辺で被差別部落の起源ともいわれる生活跡デルタの地形を見ることができました。
翌日は、室町幕府八代将軍足利義政が造った慈照寺銀閣を散策しました。差別を受けていた善阿弥の優れた能力で作り上げられ、国宝に指定されている見事な「わび・さび」の庭園は、日本の誇れる美意識だと感じました。最後は、明治期に被差別部落の人々により設立され、差別を撤廃していく模範とされた柳原銀行の資料館に行きました。当時の人々の力強さと行動力に驚きと感動を覚えました。
京都フィールドワークへの三度の参加を通して、団結の中で差別解消や人としての誇りを勝ち取ろうと努力した人々を知り歴史を正しく理解し、自ら考え、行動を起こすことの大切さを痛感しました。これから私も、人を尊敬し、社会を明るくする行動に取り組んでいこうと思います。

ひまわり賞 決まる!

観覧者568名による投票の結果、ひまわり賞が以下のように決定しました。

【ポスターの部】
大内田紗那 さん (第五福田小・4年)

【標語の部】
光森 芽音 さん (第四福田小・6年)
右川 泰雅 さん (水島中・2年)

第四福田小・6年 光森 芽音

◆人権作品展◆

第1回人権作品展(10月18日～19日)、第2回人権作品展(11月29日～12月10日)で、水島小・第四福田小・第五福田小・水島中の児童生徒の人権ポスター・標語・作文を展示しました。また、近隣の保育園・幼稚園児の「はあとくん」のぬり絵も展示しました。たくさんの方々が熱心に観覧してくださいました。

水島中学校

一生残る デジタルライフ
3年 野呂 柗太郎

3年 山下 陽平
3年 服部 流星

2年 右川 泰雅

水島小学校

1年 板倉 実桜

6年 國末 唯翔
5年 塩崎 源
4年 藤田 章乃
3年 高山 楽人
2年 岡本 咲和
1年 ヴオドウクトアン

第四福田小学校

1年 緒方 悠

6年 金平 ひなた
5年 難波 美空
4年 園部 晴
3年 間庭 朝陽
2年 片山 紗英
1年 田中 陽南乃

第五福田小学校

4年 大内田 紗那

6年 佐藤 来夢
5年 鳥飼 友紀恵
4年 片岡 樹希
3年 井口 帆乃夏
2年 小谷 奏歩
1年 原田 織津夏